

施策テーマ	達成目標	目標達成のための具体的取組等	実施年度					目標別評価	達成目標別コメント
			H28	H29	H30	R1	R2		
1 安全・安心で快適な道路空間の提供	■野田川大宮道路：平成28年度完成目標に向け整備推進	供用開始前総合調整、防災訓練	■					◎	・平成28年10月13日 防災訓練 ・平成28年10月15日 供用開始イベント実施 ・平成28年10月30日 野田川大宮道路供用開始
		供用開始前イベント	■						
	■高速道路にふさわしい高い安全性及び工事品質の確保	高い技術力を活かした的確な調査設計の実施					○	・トンネル点検で現地走行型計測の実施、路面性状計測車による調査の実施 ・料金所に最新の料金自動収受機(MIC)を導入
		最新鋭設備の導入	■						
		渋滞原因の究明及び必要に応じ追越車線等の設置	■						
		供用後の維持管理を十分意識した施設の整備	■						
	■効果的な事故防止策の実施	パトロール等24時間管理体制の継続実施	■					○	・パトロール等による24時間管理体制の継続 ・進入防止柵の改善や薬剤設置等による計画的な動物侵入対策の実施 ・NEXCO西日本と協定等締結し連携強化を図り、冬期安全通行を確保
		万全の雪氷体制による冬期安全通行の確保	■						
		交通事故多発箇所の原因究明と対策の実施	■						
		効果的な動物侵入対策の検証と実施	■						
■管理運営体制の充実・強化	管理延長増加や高度な維持管理に対応した組織・人員、管理体制・設備配置等の充実・強化	■					○	・野田川大宮道路の開通により、建設事務所を廃止し、管理事務所の体制を改編 ・NEXCO移管に向けた諸課題に対応するため、管理事務所における組織・人員体制をさらに充実・強化	
	■京都縦貫自動車道と一体となった山陰近畿自動車道の安全かつ効率的な維持管理の実施	京都府との管理協定及び受委託契約の締結	■						○
■TN・橋梁・道路付属物・法面・舗装・設備に係る維持管理	宮津天橋立IC～丹波IC間の橋梁、TNの点検実施	■					○	・橋梁点検は、1巡目が終了し、現在2巡目の点検を実施中 ・平成27年度から法面点検も実施 ・平成28年度に京都府道路公社インフラ長寿命化計画(行動計画)を策定。 ・平成29年度にインフラ長寿命化計画(個別施設計画)策定に着手し、これまで実施してきた各構造物の点検結果等を整理の上、個別施設計画策定業務が終了、これに基づき効率的な管理を実施	
	橋梁点検結果に基づく維持管理計画の策定	■							
	切土・盛土法面の点検、補修	■							
	排水機能保持を主眼に置いた舗装現況調査及び補修							
	全設備について定期的に保守・点検を実施	■							
	耐用年数や部品供給期限等を考慮して、主要な電気通信・機械設備の更新計画を策定・実施	■							
■橋梁耐震補強対策の推進	H8道路橋示方書に合致する耐震補強対策の実施(交付金を活用)	■					△	・国の方針に基づき、未対策橋梁の対策に着手	
■利用者にわかりやすい案内標識、道路情報板等の充実	JCT・IC等における案内標識の改善	■					○	・京丹波PA上下両方向に充電スタンドを設置・運用開始 ・夜間視認性向上のため広角プリズム表示板への更新や逆走防止標識・矢印の設置等	
	フリー入力型道路情報板への更新	■							
	本線には、ガソリンスタンド、EV充電ステーションがないことからスタンドへの案内を充実させガス欠事故の解消を図る。	■							
	分かりやすい路面表示、視線誘導等の実施	■							
■タイムリーな道路交通情報や関連情報の提供	関係機関への道路情報の積極的提供	■					○	・HPに京都縦貫道の上下方向別混雑状況やライブカメラ映像を配信中 ・Facebookやtwitter等SNSを活用し情報を発信中 ・毎月関係機関等に沿線ガイドチラシを配布	
	HPやSNSを利用した渋滞情報提供の更なる推進	■							
	プレスリリースによる渋滞予測の継続	■							
	「みちづくりかわら版」や「イベント情報チラシ」の発行の継続	■							
	沿線市町によるSNSなどへの投稿の推進							
	VICSやETC2.0の導入の検討	■							○
ICTの積極的活用の検討	■								
■緊急時(地震、大規模車両火災、多重衝突事故等)における態勢の確保	大規模地震や原子力災害等を想定した事業継続計画の作成					○	・関係者が参加し、平成28年10月13日水戸谷トンネルで避難訓練、令和元年7月9日地蔵トンネルで現地確認を実施 ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、受託業者を含めたBCPを策定	
	高速道路での緊急事態を想定した関係機関との連携による総合防災訓練の定期実施	■							
総合評価	○	野田川大宮道路は平成28年10月30日に供用開始した。道路管理は、24時間体制でパトロール等を行うとともに定期点検を実施し、計画的に道路構造物の補修を行うなど、安全・安心で快適な道路空間の提供を行うことができた。						目的別集計 ◎1 ○9 △1	

施策テーマ	達成目標	目標達成のための具体的取組等	実施年度					目標別評価	達成目標別コメント
			H28	H29	H30	R1	R2		
2 地域活性化に貢献する道路の創造	■沿線市町及び関係団体等との連携強化	沿線市町、商工会議所、観光協会等との定期懇談会の開催及び共同事業の実施						◎	・PAに沿線市町、観光協会等のパンフレットやポスターを配架 ・毎年、由良川PAにて沿線の特産市を開催し沿線市町から出店、来場者に対しアンケート調査を実施
		海の京都、森の京都、お茶の京都との連携や住民参加型イベントの開催							
	■由良川PAを拠点とした地域振興策の支援	地元農水産物の販売等、地域活性化イベントの積極的支援						○	・地元農産物販売やイベント開催等への支援を実施
	■京丹波PAの更なる魅力向上	京丹波町と連携・協働による京丹波PAの利用活用策の取組						○	・定期的に、京丹波町・道の駅と意見交換会を開催 ・バス駐車レーン改善、トイレ改修の実施
		ピーク時における混雑緩和対策やトイレの処理能力の検討							
■地域活性化及び京都縦貫自動車道利用促進に資する公社独自割引の検討	経営に寄与できる割引制度の検討						○	・ネクスコと連携し、近隣府県周遊ドライブバスの販売を実施 ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、多大な影響を受けた京都府北部地域活性化のため、京都府施策として割引を実施	
■府民と協働で作られ愛される道路への取組	工事見学会、施設見学会等の積極的な実施						◎	・工事現場見学会や管理事務所見学会を実施	
	こならちゃんプロジェクトの継続								
	府民協働によるプレイベントの実施								
総合評価	○	関係団体と協働し、住民参加型のイベントを行うなど関係機関との連携に努めた。更に、由良川PAでは、地元農家と協働で農産物の販売を行う等地域と連携した利用促進の取組を実施し、地域活性化に大いに活券することができた。						目的別集計 ◎2 ○3	
3 人と自然にやさしい道づくり	■豊かな自然環境に配慮した道路の整備	樹種選定や維持管理手法に工夫した植栽の実施						◎	・外来種を排除した植生工を実施 ・「京都府景観形成指針」に準拠して、野田川高架橋の塗装を実施
		天の橋立周辺地域であることを踏まえた景観に配慮した施設整備							
	■地球温暖化防止対策の推進	LED照明への更新						◎	・公社管理区間の全てのトンネル照明を更新時期に合わせて順次LEDに更新済
		太陽光など自然エネルギーの積極的活用							
■道路利用者等の意見を積極的に聞く仕組みづくり	道路利用者及び観光客等に対するアンケート調査(顧客満足度調査)等の実施						○	・道路利用者意見やアンケート結果を踏まえたHPの更新を実施	
	利用者の意見をくみ取りやすいホームページづくりの継続								
■利用者意見を経営に反映させるシステムの構築	利用者からの問い合わせ、意見等の全社的情報共有の推進						○	・公社共用フォルダを活用して公社全体で情報共有	
総合評価	◎	京都縦貫自動車道において、トンネル照明のLED化を進め完了し、電気使用量の削減に努めることができた。						目的別集計 ◎2 ○2	
4 働きがいのある職場づくり	■京都縦貫自動車道・山陰近畿自動車道の管理運営にふさわしい組織体制の整備	高度な維持管理にふさわしい組織・運営体制の充実						○	管理区間延長の増やインフラ長寿命化対応のためH29から体制強化、ネクスコ移管に向け更に増強
		公社技術向上会議の充実							
	■高い技術力の継承と更なる向上	技術習得のための先進地視察及び研修参加						○	・野田川大宮道路の建設の記録を作成・配布 ・技術力の向上を図るため、公社内で技術力向上会議の開催 ・橋梁点検や維持修繕のため、積極的研修等への参加
		野田川大宮道路建設報告書の作成							
■職員が仕事の成果を実感できる取組の実施	道路公社全部門参加による業務発表会の開催						○	・関係機関(国・府・公社)の技術発表会で報告	
工事報告会での積極的な発表の継続									
総合評価	○	京都縦貫自動車道及び山陰近畿自動車道の管理体制を確立するとともに、京都縦貫自動車道のネクスコへの移管を踏まえ、更なる増強を図った。						目的別集計 ○3	
5 公正・透明で健全な公社経営	■経営に関する資料等の積極的公表	直近3ヶ年の財務諸表等の公表						◎	・公社のHPで毎年更新・公表
		役員報酬に係る情報公開の推進							
	■管理コスト等低減のため取り組みの実施	コンパクトな体制による事業への取組						◎	・電力調達方法を見直し、電気料機のコストを削減 ・借入先金融機関に対し協議を行い、借入金利を軽減
		電気契約方式の見直し							
		自然エネルギーの更なる活用							
■新たな収入確保のための取り組みの実施	収益事業が可能となる法令整備						○	・広告取扱規程を新設し、京都縦貫道広域マップの広告募集中(H29年度から広告料収入獲得) ・ネクスコと連携した近隣府県周遊ドライブバスを販売 ・外国人向けドライブバスは、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できず	
	HPのパナー設置やネーミングライツ等、広報媒体における企業広告の導入								
■コンプライアンスの徹底	京阪神地域やインバウンド需要の取込み						△	・情報セキュリティについて、総合的な対策(ネットワークシステムの強化、管理体制の準備、研修・啓発)を実施	
	コンプライアンス研修の定期的な実施								
情報セキュリティ対策の実施									
総合評価	○	道路公社ホームページで、リアルタイムの交通状況、ライブカメラ映像や財務諸表等の提供を行い、また、毎月沿線ガイド作成など、情報発信を行った。電力調達方法の変更や、借入金利の大幅低減など、公社の経営改善に大きく寄与した。						目的別集計 ◎2 ○1 △1	